

日本企業及び地方自治体の皆様へ

欧州市場における事業推進支援

日本の皆様こんにちは

英国のケント州をご存知でしょうか。“Garden of England” と呼ばれるほど美景を写すランドスケープは古城と共に観光の見せ所となっております。そのような環境の中で行われている果樹園栽培の産業もケントの顔の一面として知られています。人口170万人は一部に固まらず州の全面に分散しています。地理的にはロンドンの東隣に位置しコミュニティーにとっては通勤圏内でもあります。そしてドーバー海峡を挟んで東側にはフランス、ベルギー、オランダがありユーロスター（急行トレイン）でパリまで1時間半で到着できます。大市場ロンドンとパリの間に位置するロケーションは経済面においての地の利と考えられるでしょう。欧州大陸をつなぐユーロトンネルはケント経済を支える大きな柱として重要な流通経路となっております。日本企業においてもヨーロッパ市場事業戦略での拠点として考慮に入れることは非常なコスト高なロンドンを見れば自然な選択肢ともいえるでしょう。この地で私達は東西ビジネスを結ぶ一つのプロジェクトを今計画しております。それは皆様との協力でお互いの経済活動に益することを目的とするものです。



<日本とケント州の関係>



今からさかのぼること西暦1600年、東インド会社の船で九州に漂着した航海士長、ウィリアム・アダムスは数奇な人生を通し、後に徳川家康より用いられ国際交易で貢献し遂には外国人唯一の直参旗本のサムライに召抱えられました。彼こそはケント州ジリングムで生まれ、英国人で初めて日本の土に足を踏み入れた日本名の三浦按針でした。按針は家康の命により欧州型帆船を2艘造船したり通訳として交易の窓口となってスペイン、ポルトガル、オランダ等の商人と対応し初期の徳川幕府に貢献しました。家康が生存中は東南アジア等アセアンにも何度となく派遣され国際交易に従事していたようです。この間にも英国との交信は行われており按針の手紙は大英図書館に今も保管されています。按針の精神は21世紀の現在も日本経済をヨーロッパにまで活性化させるため東西の架け橋になることを望んでいるに違いありません。

欧州市場を見据える企業の皆さんへ

現在西ヨーロッパ市場はいまだ経済成長を見せているアジア市場とは異なり一般的に成熟市場と言われております。更に潜在的に金融力が有りながら流通性が良くないとの指摘もあります。その理由の一面には投資の鈍化と地方経済の疲弊が見られます。しかしその反面新ビジネスで快進撃を見せ成長している企業も続々と出て来ております。これらはニッチ市場であり High-end-market（高級品市場）で顕著に現れています。つまり革新的で魅力的な製品、サービスであれば価格を重要ファクターとせず買ってくれる消費者層が多く存在しているということです。日本の地方社会で独自に持つ興味深い伝統や文化、技術がイまだ欧州市場では知られていないものがまだ数限りなくありますがそれらは即ビジネスチャンス、宝石の原石であることを容易に理解できるでしょう。日本政府が和食文化の輸出を提唱しているのもその一環です。値段の高い日本伝統の職人包丁が世界の各地でもはやされているのをご存知でしょうか。この火種は日本人からではなく外国人の目と発想で発信されたものです。日本人が通常当たり前と考え気にも留めないものを海外では驚異と関心の的になっている姿が今もちらほらと見かけます。ではなぜそれらを積極的に発掘してビジネス化し配信しないのかという疑問が自然と浮かんで来ます。私共の計画するプロジェクトはそういった可能性を発掘してビジネス化へと推進させるための手段でもあります。そして今この方向で成功事例を作って行きたいと考えております。そこでこのプロジェクトの一環として一つの目的を具現化するため皆さんにご提案致します。「御社の製品、技術、サービス、その他を欧州市場でどれ程受け入れられるのかチャレンジしてみませんか。」ということです。当方では欧州市場に興味を持つ企業様へ特別に個々の市場調査、顧客ネットワーク等を含む出来る限りの支援を提供し成功事例になって頂くイベントを試みる運びとなりました。この支援の一つである委託調査活動により日本に居ながらにして事業展開に必要ないろいろな要素を発見できるでしょう。積極的な展望とチャレンジ精神をもたれる企業様、事業主様であればまずはお相談致したいと存じます。また逆に英国側に扱ってみたい輸入アイテムあるいは事業上でのパートナー要望依頼がありましたらその旨ご相談下さい。日本側からの積極的なフィードバックを期待しております。

福田秀敏/国際ビジネス顧問

お問い合わせは下記メールにてお願い致します。

fukuda@kentfoundation.org